01　図書館に泊まるということ

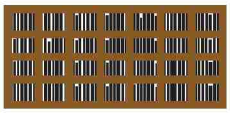
4班　三沢美穂・伊藤佑那・岡本奈緒

私たちは**図書館**と**宿泊施設**の複合を提案する。ここでの宿泊施設は岸和田市内外の人との交流を生み出すゲストハウスのような場所である。皆がほとんどの時間を共有スペースで過ごし、寝る直前まで和気あいあいと交流を深める。本と宿泊者、岸和田市民の相互作用によって様々なコミュニティが生まれる。

本設計において、寝室は寝ることを強制する空間になりうるという考えから寝室は設けない。宿泊者は図書館内の好きなところを見つけて寝る。心地の良い空間は人それぞれで、そこでの宿泊体験は個人の特別なものでもあり、同じ空間を共有した人と共通のものにもなる。

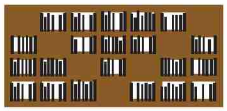
昼の図書館と夜のゲストハウスの二面性を考えながら、交流によって岸和田市を活性化できるような図書館を設計した。

02　本棚について



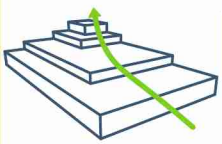
図書館において本棚は壁のような存在

本を取る・戻すという行為は
隙間を作り出し、光や視線など、
本棚の向こうとのつながりを生む。

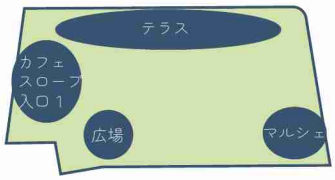


実際の壁のように配置し本棚を構造体とする。
格子に板を配置することでトラス状にしたり、
デザイン性を確保した新たな壁である。

03　外構の考え方



福祉総合センターとの関係を考え、テラス等を全面的に設けた、外に開かれた外交デザイン



奥に行くにつれ高くなるボリュームで徒歩の人が入りやすい外構デザイン

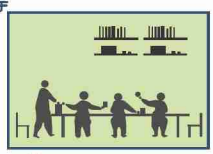
楽しくにぎわう様子を道路側に伝えるマルシェ

野田町会館からそのまま入れる広場

04　岸和田のカケラと宿泊

出張の間（入れ替わり制）
牛滝温泉・地域のカフェ等

岸和田の間
図書と絡めた地域の間



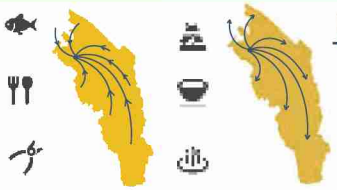
リビング
誰でも気軽に過ごせる交流の起点
口コミ、お土産話、何でも話せる

マルシェ
地域食材の直売

表現の間
発表の場

旅行に行くと部屋においてある地元のお菓子、朝食に出てくる地元の食材、地元の焼き物の器、伝統工芸品などその地域らしさのカケラにたくさん出会う。この施設では市民がカケラを持ち込んでくる。

図書館を利用する市民と宿泊者との交流では口コミもカケラになる。この場所において、市民は地域のコンシェルジュになる。



05　循環が生み出す未来の岸和田

人を通した広がりは町全体に影響を与え、この施設は岸和田の原点ともいえる未来の図書館となる。この場所を起点とした岸和田全体への広がりと集まりの循環サイクルはまちを持続的に活気づけるものとなるだろう。